

# 勝海舟 英雄色を好む

2013年8月15日  
東京・江戸散歩  
おすすめ25コース  
PHP文庫

江戸時代の末期、世界では欧米列強が武力によりアジア・アフリカ地域での植民地支配を進めていた。  
江戸幕府の重鎮・勝は、激変する世界情勢のもと、日本がどうしたら独立国家として生き延びていけるかを模索していた。

土佐藩を脱藩した坂本龍馬は人づてに赤坂の勝海舟邸で勝に面談し、勝に弟子入りしている。  
志なかばに亡くなった坂本龍馬は勝海舟に大きな影響を受けている。

幕府軍と薩長を中心とした官軍が一戦を構えることは、欧米列強の軍事介入をうながし、日本支配の口実を与える可能性がある。  
今は国内で争っている時ではないと、官軍の司令官・西郷隆盛を説得したのは勝海舟。  
江戸城を無血開城に導いた勝海舟は、江戸末期から明治時代初期の日本史には欠かせない人物。

明治維新政府では海軍卿になり日の当たる道を歩んでいる。



1899(明治32)年1月19日、76歳でこの世を去っている。  
脳溢血で倒れた勝の最後の言葉は「これでおしまい」……の言葉はあまりに有名。

勝の墓は生前、勝の別荘のあった大田区の洗足池公園にある。

勝の死の6年後に亡くなった妻の民子は、いったん青山墓地に埋葬され、のちに洗足池の勝の墓に移された。  
民子は亡くなる前に「勝のそばには埋めてくださるな」と言い残していた。  
民子が夫と一緒に墓に入りたくないと言った理由は、勝の好色に原因があった。

勝の女好きはかなりのもので、民子との間に4人の子供をもうけたが、  
ほかにも妾・梶久子、女中・増田いと、小西かねと次々に子をませ、  
小間使いの森田米子が妊娠した時、勝はすでに62歳だった。

勝が倒れた際に最後を看取ったのも、妻ではなく、増田いとだったという。

